

# 平成 25 年度 北海道・東北ブロック青少年国際交流を考える集い ご案内

IYEO 会員の皆様

今回の大会を通して、お世話になった全国の皆さんに、私たちが元気であることをお伝えしたいと思います。どうぞ、皆さん、福島においでください。心より皆様のお越しをお待ちしています。

現在、除染作業のために全国から多くの方が福島に滞在してくださっています。また地震の被害で廃業を余儀なくされた旅館もあります。そのため、現在、福島のホテルや旅館が混み合っており、実行委員会としてはもう少しお安く参加費を提示したかったのですが、それが叶いませんでした。御理解のほどよろしく願いいたします。

北海道・東北ブロック大会実行委員会一同

## (1) プログラム

### <1日目>

☆ 全体会 14:30～15:15

「今、私たちにできること」

発表者: 日下部 喜美子(第6回日中青年親善交流(1984年))

船とつばさの会ふくしまが行ってきた活動を事例としながら、組織の強みや弱点を理解しながら活動を組み立てていくことの重要性を再認識し、今後の私たちの活動の在り方を考える起点とします。

☆ 分科会 15:30～17:00

### ① カメルーン子ども応援プロジェクト報告

「船と翼の会ふくしまがつないだ日本とカメルーン」

講師: 幕内 良子(第17回世界青年の船(2004年)、現在マラウイ在住)

ファシリテーター: 亀田 周(第32回東南アジア青年の船(2005年))

カメルーンという遠い国の小さな村の子どもたちの夢を応援したいと船と翼の会ふくしまでは、カメルーン子ども応援プロジェクトを進めています。電気も通らない小さな村の孤児院 Kentaja では、支援だけに頼らず「自立したい」という思いから、独自で養豚を行い資金調達システムを作り始めました。当プロジェクトの紹介を行うとともに、様々な立場の方が協力し合うことについて考えます。

※ 大会開催中、カメルーンコーヒーやカメルーングッズの販売なども行います。

### ② 国際理解ワークショップ

「船の中の大事件」

ファシリテーター: 菅野 裕子(第13回世界青年の船(2000年))

青年国際交流事業での経験は国際理解教育のネタの宝庫です。「世界青年の船」でのある出来事が、国際理解のワークショップになりました。参加者の皆さんの経験からオリジナル教材を作ることもできますし、このワークショップを経験し、次は皆さんがファシリテーターとしてこの国際理解ワークショップを実践することも可能です。

### ③ 葛尾村のふくろう作り

「避難所から巣立った100羽のふくろう」

講師: 志賀幸男(葛尾村出身、現在福島市在住)

ファシリテーター: 吉田 恵(第22回世界青年の船(2009年))

2011年3月の原発事故で全村避難を強いられた福島県葛尾村。避難先の体育館を出る時、村の有志数名が感謝の気持ちを込めて「ふくろう」のぬいぐるみ約100羽を作り、お世話になった方々へプレゼントしました。当時、村の臨時職員を務めていた志賀幸男さんから、「ふくろう」が生まれた経緯や避難生活の様子を聞き、簡単な作業で「ふくろう」作りを体験します。※材料費として当日300円徴収します。

<2日目>

☆ ワークショップ 9:00～11:00

「社会貢献、いつやるの？ いまでしょ！」

ファシリテーター:山崎 庸貴(第16回日本・韓国青年親善交流(2002年))

今大会2日間のまとめとして「今、私たちにできること」とは何かを、参加者全員で考えます。内閣府国際交流事業をはじめ、これまでの国際交流や社会貢献の経験を活かし、今後、一人ひとりが各地域においてどのような社会貢献活動、事後活動を行なっていききたいか、具体的で実践的なアクションプランの策定を目指します。

☆ 帰国報告会 11:00～11:30

「平成24年度青年国際交流事業参加者によるパネルディスカッション」

ファシリテーター:山崎 庸貴

パネリスト:緑川 大志(第25回世界青年の船)

佐藤 昭子(第11回青年社会活動リーダー育成プログラム)

ほか2名(予定)

<支援活動> 大会中、以下の物品販売をします。ご賛同いただける方は、ぜひご購入下さい。

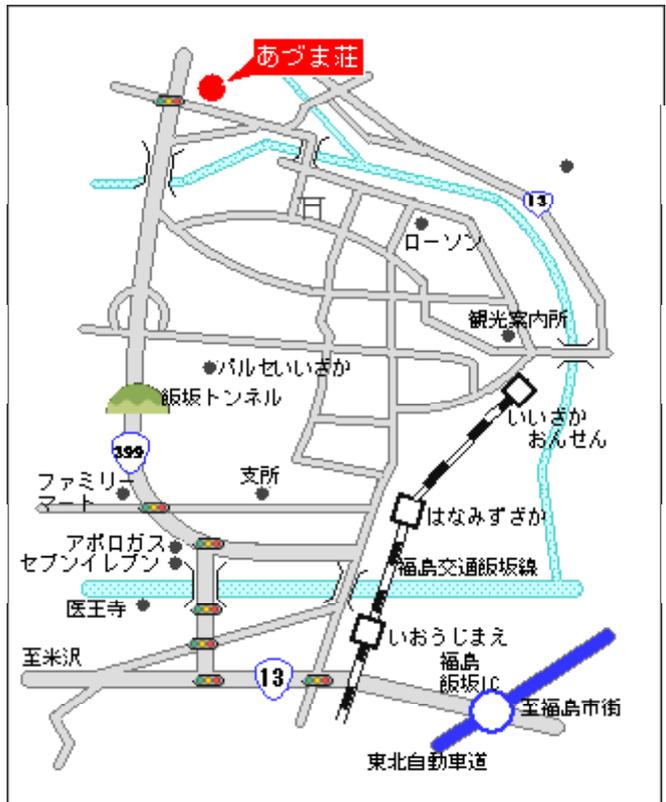
☆ 復興支援雑巾プロジェクト

全国の皆さんからいただいたタオルで被災者の皆さんに雑巾を縫っていただき、その雑巾を買取り販売しています。三春町の仮設住宅にお住まいの葛尾村の皆さんにも、協力していただいています。全国のIYEOネットワークを活かし販売していけたらと思います。  
小学生や中学生が学校に持って行く雑巾のサイズに作ってあります。2枚組 100円以上で販売しています。

☆ カメルーン子ども応援プロジェクト

船と翼の会ふくしまでは、養豚を通して孤児院Kentajaの自立を支えるための資金を集めています。Kentajaが経済的自立をすることで、多くの子供たちが安心して教育を受け、未来を自分で切り開いていくことができます。日本の皆さんの好みに合うような雑貨を頑張って調達しています。

(2)アクセス



飯坂温泉駅からタクシー約5分。福島交通飯坂線(福島駅～飯坂温泉駅)を御利用の方は、<http://www.fukushima-koutu.co.jp/train/index.php>にて時刻表、運賃等を御確認いただけます。